

エアコン編 追記

冷房時にこんな節約方法が

夏の冷房の省エネ...外気からの室内への熱の侵入はテラス窓からの侵入が最も大きく、窓などの開口部からは約7割の熱の侵入があります。又冬季の暖房時では約5割近い熱の放出があり、これが冷暖房の大きなエネルギーロスに繋がります。冷房時には窓の外によらずや植物のカーテン(多いのはゴーヤなどの植物)をはったり、室内側は白色系のカーテンなどをひいて室外からの熱を遮断するのが効果があります。

送風のテクニック、加湿について

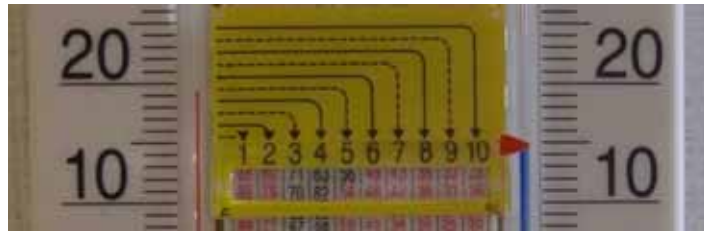
温風の邪魔をしない...室内側の送風は暖房時の時には主に下側に送風されることが多く、エアコンの室内機の下側の前に衣類などの収納ケースや家具などを置くと暖房送風の邪魔になり、暖房効果が妨げられます。吹き出し口のまっすぐ下から前に向かって30°前後の場所に物を置かないようにしたら暖房効果は上がります。

エアコン暖房の送風温度は40~50°程度、メーカーにより運転初期の急速暖房で60°程度の送風を行う機種もありますが、石油やガスの暖房機に比較しますと温風の温度はさほど高くはありません。その為に暖房感が不足すると思われるかもしれませんがエアコンの温風は上に上がり易く、特に弱モードの送風では暖房の一番欲しい足腰の部分までには到達しません。暖房を行う際には、風の吹き出しの方向を下に向け、強程度の送風を行うと比較的早く足腰の部分が温まります。

エアコン暖房が空気が乾燥します。石油やガスの化石燃料は炭化水素系(炭素と水素の化合物)で、都市ガスの主なガスはメタンガスです。化学式ではCH₄と書き、C(炭素)に対しH(水素)が4個結合しています。これらは燃焼すればCはCO₂(二酸化炭素)に、Hは水(H₂O...但し水蒸気の状態ですが)になります。アバウトですが灯油を1°燃やせば、ほぼ1°の水が発生します。又ガスの場合は灯油の約1.5倍近い量の水(水蒸気)が発生します。エアコンの場合は熱交換器により室内の温度を上げますので、相対湿度は下がります。エアコン暖房の際には加湿器を併用することをお勧めしますが、エアコンの暖房を止める前に加湿器のスイッチを切っておくのがコツです。過剰な加湿はカビやダニの発生の引き金になり、お勧めしません。ちなみにキッチンと同じスペースのリビングルームでは炊事中に多量の湯気は発生して加湿状態となりますので、加湿器はあまり必要でないかもしれません。湿度計をお持ちであれば45%~55%程度での湿度調整をされる方がよいかと思えます。



(リビングルームに常設している温度計、エアコン暖房時ですが乾球の温度が19.5°、湿球の温度が14°で、湿度は56%です。リビングルームはキッチンと併設になっており、この日の朝も朝食の準備で湯気が出ていました。ちなみに室外の気温は4°で湿度は40%の日でした。)



(我が家のエアコン、暖房時は風の向きを下向きに設定、昨年購入の高効率タイプCOPが5.2近くあり強力な暖房をします)



エアコン暖房運転安定時での温度計測、安定状態では40°前後の温風送風になります。暖房吹き出し開始時は、更に温度が高く50°以上のパワフルな温風が吹きだします。



2月28日の朝9時、室外温度は1°、パワーモードでの暖房スタート後10分で吹き出し温度はなんと62°に

200V製品のお勧め...今、ほとんどのご家庭で家庭用の200Vの電源が来ています。エアコンを購入される場合、通常販売店の店頭での接客では100V仕様の機種で話が進みますが、200V電源があると話して機種を決めたいかがでしょうか。各メーカーの販売機種は、ほとんど2.8kw機種から200V(単相200Vと正式には言いますが)のものを用意しています。但し100Vの機種に比較して生産量は多くはありませんので、夏の販売シーズンの最盛期には販売が完了している場合もあります。200V機種は100V機種に比べると電流量が半分です。家のブレーカーが過電流により落ちることを防げますし、又配線上でも多少省エネに繋がる要素もありますので。